



今年も残すところあと少しとなりました。今年最後の「いな福」です。

今回は、いつもお世話になっている外部講師の方の施設で、介護ロボットを活用した介護について学んできましたので、その様子をお伝えします。

介護ロボットと言うと、人の形をしたロボットを想像しがちですが、厚生労働省のHPによると、「介護ロボット」は下記のように定義されています。

介護ロボットとは

1.ロボットの定義とは、

- 情報を感知(センサー系)
- 判断し(知能・制御系)
- 動作する(駆動系)

この3つの要素技術を有する、知能化した機械システム。

2.ロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護ロボットと呼んでいる。

介護ロボットの例

移乗支援



装着型パワーアシスト

移動支援



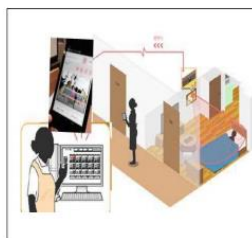
歩行アシストカート

排泄支援



自動排せつ処理装置

認知症の方の見守り



見守りセンサー

出典：厚生労働省HP「介護ロボットとは」閲覧日平成30年12月17日

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000210895.pdf>

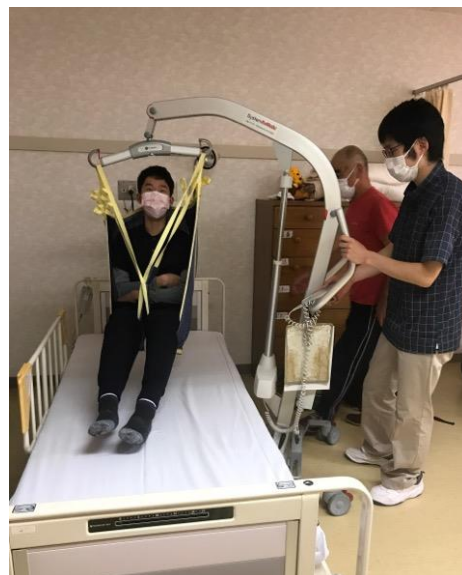
このように、人の形をした「まさにロボット」というものだけではなく、利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つロボット技術が応用されたものを、介護ロボットと呼

ぶようです。

今回、生徒たちが体験したのは、移乗支援型にあたる「床走行式リフト（以下：介護リフト）」です。この介護リフトは、ベッドで横になっている利用者さんを車いすに移乗するときなどに使います。



床走行式リフト



ベッドから車いすへ移乗中

生徒たちは、外部講師の方に介護リフトの使い方を一通り学ぶと、「ベッドから車いすへの移乗」、「車いすからベッドへ移乗」を、外部講師の方が見守る中、介護リフトを使って自分たちだけで行いました。



生徒たちは、初めて使う介護リフトに臆することなく、自分たちで話し合いながら、役

割分担を決め、とてもスムーズに介護リフトを使って移乗を行います。あまりの連携のスムーズさに外部講師の方も驚かれていました。

介護リフトの体験を終えた生徒たちは、次のように感想を語っています。

「移乗のときに無理に人の力だけで利用者さんを持ち上げたりすると、利用者さんも介護する側も怪我につながるので、とても危険だと思う。その点、介護リフトはとても便利で、介護する側は身体の負担が少なくなりとても良い。ただ、自分がリフトで上げられて、空中にいる時、少し怖かった。『上がりますよ。下がりますよ。もうすぐベッドに身体がつきますよ』といった声かけがあると、とても安心できた。介護ロボットの便利さと介護者側の声かけが利用者さんの安心につながることを、よくわかった。」

現在、介護ロボットは、利用者さんの自立支援を助け、介護者の負担軽減を図ることに期待が高まっています。そんな中、単に介護ロボットを使うのではなく、介護ロボットを使う介護者の少しの気遣い、安心感を与える声かけなどがあることで、介護ロボットを活用した「介護者も利用者さんも安心・安全なよりよい介護」ができることを、生徒たちは実感を通して学んだようです。



初めて介護リフトを使ったとは思えないスムーズな移乗に、生徒たちの成長を感じることができました。

番外編 外部講師の方への感謝状

4月からずっとお世話になっていた外部講師の方の今年度の授業が終了しました。実践的な介護技術を教えていただけるだけでなく、人生の先輩として生徒たちに愛情深く関わっていただきました。

これまでの感謝の気持ちを込めて、生徒たちから感謝状を授与しました。

外部講師の方をはじめ、ご協力いただいた介護施設のみなさま。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

